法 政 大 学 大 学 院
入 学 試 験 問 題 用 紙

試験科目	経営学研究科 経営学専攻 修士課程≪一般≫ 研修生	２０２６年度 秋 季	試験時間
専門科目			９０分

[注 意]
1．解答は別紙の解答用紙に記入すること。
2．三つの問題カテゴリ（【経営】【会計】【産業・経済】）の6問から任意の2問を選択し、解答すること。
同じカテゴリ（例えば【経営】）から2問を選択してもよい。ただし、3問以上の問題に解答した場合は採点対象としない。
解答は問題ごとに別の用紙に記入し、解答した問題番号を解答部分の冒頭に記入すること。

【経営】

問１　以下①～③に日本語で回答してください。数式やアルファベットの使用は可。

①Porter & Lawler(1968)*における動機付けの期待理論の概要を説明してください。

*Porter, L. W., & Lawler, E. E. (1968). Managerial Attitudes and Performance. Homewood, IL: Dorsey Press.

②この理論に依拠し、管理者が部下の動機付けを高める方法の例を示してください。
（その際、当該理論にどのように依拠しているのか明示すること。）

③この理論の限界を理由とともに指摘してください。

問２　マーケティングにおいて、近年重要とされる「カスタマー・ジャーニー」に関する問いである。

（１）カスタマー・ジャーニーとは何か、80～100 字程度で説明しなさい。

（２）カスタマー・ジャーニーが重要となった市場背景を説明しなさい。

（３）カスタマー・ジャーニーにおける主要なフェーズを 3 つ挙げ、それぞれの概要を簡潔に説明しなさい。

（４）ある文具メーカーは SNS 広告を通して、新商品の知名度を上げることには成功しているが、公式サイトで十分な情報提供ができず売上にはつながっていない。この課題が発生しているカスタマー・ジャーニーのフェーズを明示し、その改善策を 2 つ提案しなさい。

法 政 大 学 大 学 院
入 学 試 験 問 題 用 紙

試験科目	経営学研究科 経営学専攻 修士課程≪一般≫ 研修生	２０２６年度 秋　季	試験時間
専門科目			９０分

[注　意]
1．解答は別紙の解答用紙に記入すること。
2．三つの問題カテゴリ（【経営】【会計】【産業・経済】）の6問から任意の2問を選択し、解答すること。
同じカテゴリ（例えば【経営】）から2問を選択してもよい。ただし、3問以上の問題に解答した場合は採点対象としない。
解答は問題ごとに別の用紙に記入し、解答した問題番号を解答部分の冒頭に記入すること。

【会計】

問３　会計公準とは何か。一般的に取り上げられている３つの会計公準について、企業会計制度との関連で説明しなさい。また概念フレームワークとの関わりについても説明しなさい。

問４　キャッシュ・フロー計算書、株主資本等変動計算書について以下の問いに答えなさい。

① キャッシュ・フロー計算書の作成目的について述べなさい。

② 我が国の会計基準に基づいて、キャッシュ・フロー計算書におけるキャッシュ・フローの区分表示とその具体的内容について説明しなさい。

③ 株主資本等変動計算書と貸借対照表との関係について述べなさい。

④ 株主資本等変動計算書の記載範囲については、純資産すべての項目とする考え方と、株主資本のみとする考え方の２つがある。わが国の会計基準では、前者の考え方を採用したが、後者の考え方も反映させ、両者の中間的な取扱いになっていると考えられる。この点について基準の規定の中でどのような配慮がなされているか説明しなさい。

法 政 大 学 大 学 院
入 学 試 験 問 題 用 紙

試験科目	経営学研究科 経営学専攻 修士課程≪一般≫ 研修生	２０２６年度 秋 季	試験時間
専門科目			９０分

[注 意]
1．解答は別紙の解答用紙に記入すること。
2．三つの問題カテゴリ（【経営】【会計】【産業・経済】）の6問から任意の2問を選択し、解答すること。
同じカテゴリ（例えば【経営】）から2問を選択してもよい。ただし、3問以上の問題に解答した場合は採点対象としない。
解答は問題ごとに別の用紙に記入し、解答した問題番号を解答部分の冒頭に記入すること。

【産業・経済】

問５

(a) 規模の経済および自然独占について、それぞれを定義した上で、規模の経済と自然独占の関係を説明しなさい。

(b) 自然独占の例を１つ挙げ、その理由も説明しなさい。

(c) 市場の需要関数が $D=a-P$ であり、限界費用が c で一定かつ平均総費用と等しいとする。D は需要量、P は価格であり、パラメター a は $a>c>0$ と仮定する。（ア）完全競争市場の場合、（イ）独占企業が単一価格を設定する場合、（ウ）独占企業が完全価格差別を行う場合、のそれぞれについて、余剰分析に必要なグラフを描き、余剰の大きさをグラフに示しなさい（必ずしも余剰を計算する必要はないが、余剰がグラフのどこにあたるのかを図示すること）。グラフの縦軸と横軸に何を取るかも書きなさい。また、（ア）（イ）（ウ）について、余剰や効率性の大小関係を比較しなさい。

問６

(a) 付加価値および GDP について、それぞれを定義した上で、付加価値と GDP の関係を説明しなさい。

(b) 2024 年の経済成長率について、何年の GDP のデータが必要かを考慮した上で、定式化しなさい。

(c) 2024 年の GDP デフレータについて、どのような GDP データが必要かを考慮した上で、定式化しなさい。日本の物価動向を踏まえると、2023 年を基準年とする 2024 年の GDP デフレータはどのような値になりうるか、説明しなさい。

(d) １人あたり資本量を横軸に、１人あたり GDP を縦軸に採り、限界生産力が逓減するような生産関数のグラフを描きなさい。また、限界生産力の逓減とは何かを説明しなさい。

(e) 次に、技術進歩が起こると、(d)の生産関数のグラフはどのように変化するか、描きなさい。

(f) 資本蓄積の進む先進国では、資本蓄積の進んでいない開発途上国に比べて、投資を増やしても経済成長は低いが、持続的な技術進歩が進めば大きな経済成長を期待できる。このことを、(d)と(e)で描いたグラフを用いて示しなさい。